令和８年度　８月定例会会議録

◎開 催 日 時　　令和８年８月２７日（木）　午後１時３０分～午後２時５３分
◎場　　所　　伊那市役所　庁議室
◎出 席 委 員　　福與教育長、宮坂教育長職務代理者、黒河内教育委員、中村教育委員、神山委員
◎欠 席 委 員　　なし
◎出 席 職 員　　北原教育次長、北原学校教育課長、矢澤教育環境整備課長、
北澤市誌編さん室長、塚越社会教育指導員、髙嶋指導主事、小島指導主事、
北原こども部長、澁谷こども政策課長、宮下子育てサポート課長、
牧田ＩＣＴ教育推進係長、竹松教育コーディネーター、牧田教育総務係長
◎欠 席 職 員　　柴生涯学習課長

１　開　　会

２　あいさつ　教育長

・今朝、羽咋市で集中豪雨により警戒レベル５となるなど、各地で大雨や地震等の災害が発生しており、いつどのような災害が起こるか分からない状況の中で、改めて万が一への備えの大切さを感じている。
・市内 21 校の小・中学校は夏季休業を終え、今週から全ての学校で２学期が始まっている。夏休み明けは、子どもたちがそれぞれ異なる思いや体験をもって登校してくる時期であり、学校では一人ひとりの様子を丁寧に見取りながら、次の学びや生活につなげていくことが大切である。
・各学校においては、安心安全な学校づくりを進めるとともに、子どもが前向きに成長していけるよう支援していく必要がある。教育委員会としても、確かに一人ひとりに手が届く支援を進めていきたい。
・今後も教育委員の協力をいただきながら、２学期の教育活動を着実に進めていきたい。

３　委員のひと言　中村委員

４　会議事項

第１　教育長報告

・７月 31 日に、長野県栄養教諭・学校栄養職員研修会に来賓として出席した。参加者の中には、全国学校給食栄養教諭等研究協議大会のため熊本を訪れていた際に地震に遭遇し、交通機関の混乱や食料確保の困難を経験した方もおり、改めて災害時に何をすべきか考えることの大切さを感じた。
・同日、春近発電所、高遠ダム及び箕輪ダムの発電所の大規模改修に伴う竣工式に出席した。春近発電所は長野県企業局が運営する発電所の中で最も発電量が多い施設であり、新たに整備された「ハルミナ」では、高遠ダムの水の流れなどを立体的な映像で学ぶことができ、子どもたちの見学先としても有意義であると感じた。
・８月１日に開催された伊那まつりでは、市民連の中で各学校の子どもたちや地域の方々と一緒に参加している子どもたちの姿が見られ、地域の大人と子どもがともに踊る様子に、地域行事の意義を改めて感じた。
・８月２日には、伊那市と新宿区との連携 20 周年の記念行事が行われ、高遠藩最後の藩主である内藤家第 19 代当主や新宿区長らを迎え、これまでの交流を振り返るとともに、今後の連携について確認する機会となった。
・８月 14 日及び 15 日に「二十歳のつどい」を開催した。今年は公民館単位ではなく中学校区単

位での開催とし、久しぶりに再会した参加者が校歌を歌う場面も見られるなど、和やかさと厳粛さを併せ持つ式典となった。今後は今回の実施状況を踏まえ、次年度以降のあり方を検討していきたい。

・８月 22 日に、高遠美術館で開催された若手アーティスト展のオープニング式典に出席した。今回は上伊那出身の女性５人による「リフレーミング」と題した展示であり、地域に根ざしながら芸術活動に取り組む作家の姿を知る機会となった。

・８月 26 日に、本年度第１回目となる中学校部活動の地域展開に関わる協議会を開催した。現在、認定クラブは６クラブとなっており、他の団体も準備を進めている。来年４月からの土日の地域クラブ活動開始に向け、必要な支援や体制整備を引き続き進めていく必要がある。

第２　議案

（１）令和９年度使用一般図書の採択について

（２）文部科学省著作教科書の採択について

・学校教育課長から資料に基づき説明

・質問、意見はなく、原案どおり決議された。

第３　協議事項

（１）伊那市立小学校小規模特認校の定員について

・学校教育課長から資料に基づき説明

・教育委員から「教室面積が他校より小さい中で 12 人を受け入れることは大丈夫か」との質問があり、学校教育課長から「学校と相談しながら進めており、対応可能と判断している」旨の説明があった。

・また、他の教育委員から「児童数に特別支援学級在籍児童が含まれるか」との質問があり、学校教育課長から「全児童数である」旨の説明があった。

・原案どおり決議された。

第４　報告事項

（１）令和８年度　伊那市学校人権同和教育研修会について

・学校教育課長から資料に基づき説明

（質問・意見なし）

（２）ＩＣＴ夏季研修会実績報告

・教育コーディネーターから資料に基づき説明

・教育委員から「参加できなかった教員に対し、興味のある講座の資料等を共有しているか」との質問があり、教育コーディネーターから「教員と共有している Google ドライブ内の ICT 活用データベースのフォルダで、各講座の動画や研修で使用したスライド等を閲覧できる」旨の説明があった。

・教育長から「研修は定員を設けて実施したのか」との質問があり、教育コーディネーターから「定員は 20 名としていたが、希望者にはできるだけ参加してもらい、23 名が参加した」旨の説明があった。

・別の教育委員から、「資料中の課題欄にある『What の問いと How の問いのベストミックス』などの表現は分かりにくく、ICT に関する資料であってもカタカナ語を多用しすぎないようにすべきではないか」との意見があり、教育コーディネーターから「『何のために、どのように使うのか』という趣旨であり、授業の中で何を学ぶために ICT を使うのかを明確にした上で活用することが必要である。表現については今後検討したい」旨の説明があった。

（3）ＩＣＴサマーキャンプ実績報告
・ＩＣＴ教育推進係長から資料に基づき説明
・教育長から「サマーキャンプを視察し、実際に手で触れたり匂いを感じたりする体験とあわせて、肉眼では見えにくいものをマイクロスコープで観察できる点に、デジタル機器活用のよさがある」との発言があった。

（4）「おいで塾事業」の実績報告について
・教育次長から資料に基づき説明
（質問・意見なし）

（5）「二十歳のつどい」の実績報告について
・教育次長から資料に基づき説明
・教育委員から「西箕輪中学校区は小学校単位で開催した場合と参加者の構成が大きく変わらない中で、いなっせで開催する意義があるのか。公民館で開催し、市長や来賓がそちらに出向く形でもよいのではないか」との質問があった。これに対し教育次長から「西箕輪中学校区の対象者数 95 人の中には信州大学の学生も含まれているため、実際の卒業生ベースでは出席率はもう少し高い可能性がある。出席者 58 人に対して生涯学習センター300 人ホールではやや広く感じられる面もあり、公民館開催も考えられるが、今回は市長やスタッフの都合も踏まえて午前・午後の開催とした。今後については今回の意見も含めて検討していきたい」との説明があった。
・教育長から「全体としては良い雰囲気の中で実施できたと感じており、今後予定されている他地区中学校区での開催状況も踏まえながら、今後の在り方をさらに検討していきたい」との発言があった。

（6）人権同和教育事業について
・社会教育指導員から資料に基づき説明
（質問・意見なし）

（7）市誌編さん事業の進捗状況について
・市誌編さん室長から資料に基づき説明
（質問・意見なし）

（8）来月以降の文化施設の行事日程について
・教育次長から資料に基づき説明
（質問・意見なし）

（9）共催・後援について
・学校教育課長から資料に基づき説明
（質問・意見なし）

5　その他
（1）次回定例会について
（2）10 月以降の主な行事予定について
（3）本日の教務主任との懇談会について

6　閉　会